

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	河内祭の御舟行事 こうちまつり みらね	国重要無形 民俗	祭りのハイライト舟渡御（ふなとぎよ）に登場する装飾された鯨船が、かつて捕鯨が地域の生活を担う誇るべき産業であったことを今に伝えている。	串本町
2	九龍島 くろしほ	国名勝	熊野灘沿岸の人々が、捕鯨につながる熊野水軍として活躍した時代に拠点のあった島であり、捕鯨が育んだ文化の一つ「河内祭り御舟行事」の舞台となる古座川（こざがわ）河口に位置し、祭りにとって聖なる場所とされる。	串本町
3	潮岬の鯨山見 しほのみさき くじらやまみ	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、かつて、古座鯨方（こざくじらがた）の拠点であった。岬の突端に位置し、熊野灘を沖合まで広角に見渡せる。	串本町
4	捕鯨の祖 和田頼元墓 そ わ だよりもとのほか	県史跡	熊野灘地域において組織的捕鯨（古式捕鯨）を始めた和田頼元の存在が墓石から確認できる。	太地町
5	太地のくじら踊り たいじ おどり	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。もとは「デーカイト」と呼び継承されてきた。踊手（おどりて）、唄手（うたいて）、太鼓打ちに分かれ、踊りは、綾棒（あやぼう）を銚（もり）に見立てて打ち振る「綾踊り」と、素手のまま太鼓のリズムにのせて鯨をつかみ取る「魚（さかな）踊り」の豪快な2曲からなり、いずれも座踊（ざおどり）である。2隻の船の間に板を渡して踊る「船がかり」と、座敷に2段の舞台を組み踊る「座敷がかり」がある。	太地町
6	飛鳥神社 あすか	町指定 (建造物)	当神社で行われる「お弓祭り」（例祭）では、的に取り付けられた鯨に似せた「せみ」を奪い合うなど、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	太地町
7	鯨 供養碑 くじら	町史跡	古式捕鯨時代に建立された現存する唯一の供養碑として、かつて人々が鯨に寄せた思いをしのびることができる。	太地町

8	古式捕鯨 支度部屋跡 したくべやあと	町史跡	古式捕鯨が始まった頃に設けられた施設の跡で、明治以降に撤収されたが、古式捕鯨の名残を伝える。	太地町
9	古式捕鯨 狼煙場跡 のろしばあと	町史跡	当時、沖の船団に連絡をする唯一の手段であった狼煙場の様子を今に伝える。	太地町
10	燈明崎 燈明台跡 とうみょうざき とうみょうだいあと	未指定	かつて新宮藩から派遣された役人が常駐し、鯨油を利用した燈明台が設けられていた。現在、絵図等を参考に灯明台が建てられている。	太地町
11	燈明崎 山見台跡 とうみょうざき やまみだいあと	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、現在、古式捕鯨図を参考に山見台が復元されている。	太地町
12	古式捕鯨 高塚連絡所跡 たかつかづらんらくしよあと	町史跡	遠く離れた山見相互の連絡をするため、中継所としての役割を果たした。連絡所の位置は、実に綿密に計画され設けられている。	太地町
13	和田の岩門 わだのせきもん	未指定	門の内側には、古式捕鯨の創始者である和田氏の広大な屋敷があったとされ、この地域一帯が、和田氏を中心とした共同体であったことを物語っている。	太地町
14	三輪崎の鯨踊 みわさきくしらおどり	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。捕鯨とともに始まり、浜で踊った大漁祝いが起源であると伝えられている。鉦に見立てた綾棒を腰に差し、両手に扇子をもち網を投げて鯨を取りまく形を表現する「殿中踊 <small>(てんちゅうおど)</small> り」と、終始座して綾棒をかかげ、上半身のみで鉦突きを表現する「綾踊り」の2曲がある。	新宮市
15	羽指中 建立の石祠 はざしなかにんりゅうせきし	未指定	側面に「〇〇〇組羽指中」とだけ読み取れる文字があり、この祠の所在する三輪崎地域の鯨方の羽指中が建立したものと考えられる。	新宮市
16	鯨山見跡 くしらやまみあと	未指定	沖を見るには絶好の場所に、現在石積がなされており、かつての三輪崎鯨方山見跡の名残を留めている。	新宮市
17	青岸渡寺の魚霊供養碑 せいがんとしぎよれい	未指定	鯨をはじめとした様々な魚の命をいただくことに対する感謝の表れとして、供養をするという精神文化が、今なお引き継がれている。	那智勝浦町

18	<small>しおがほ</small> 塩竈神社のせみ祭り	未指定	鯨にまつわる祭りとして当神社で行われる「せみ祭り」（例祭）では、的に取り付けた鯨に似せた「せみ」を、「せみ子」と呼ばれる白装束の子供が引き抜き走るといふ、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	那智勝浦町
19	浜の宮のお弓祭り	未指定	熊野三所大神社の例祭であり、神事の中で、的に取り付けられた鯨に似せた「背美 <small>（せみ）</small> 」を奪い合う、あるいは的の端を持ち帰るなど、捕鯨にまつわる伝統行事として、今も受け継がれている。	那智勝浦町